



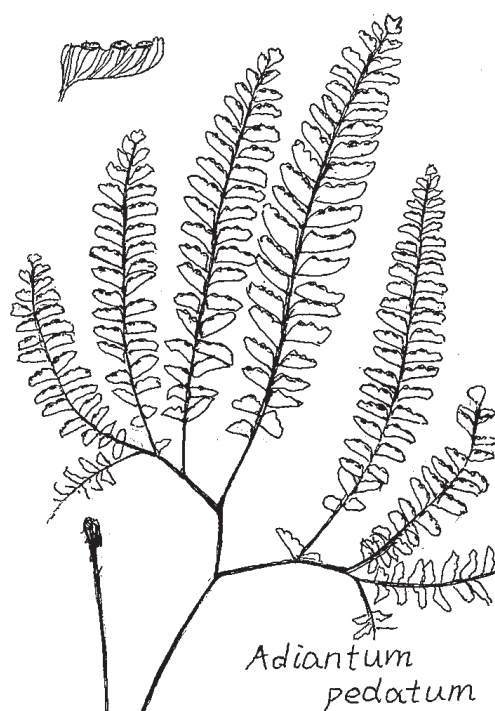
今月の便り

庭の虫

「今年はマイマイガが多い」と良く聞きました。その他カメムシやら何やら。おそらく街中でも朝早くに薬剤散布したところもあることでしょう。広く防除される人は皮膚や口や目などをしっかり保護することを忘れずに。身体に良いわけがありませんから。なので庭などの狭い範囲で虫対策する時はなるべく補殺をお勧めします。ドクガ、マイマイガなどは岩見沢では5月の初め頃に体長1センチぐらいの幼齢幼虫の集団が葉の上で見つかります。岩見沢市内の我が家では5月8日にシラタマミズキの葉の上の20匹ほどの集団を6箇所見つけました。成長して集団がばらける前に着いている枝葉を切り落として補殺してください。朝涼しいうちのパトロールがお勧めです。それ以降9月ぐらいまでは、何か庭に飛んでいると思ったら網で虫取りをしてください。マイマイガ、ドクガ、ネキリムシなどの成虫を検索して覚えておくと捕まえやすいでしょう。庭木の害が目立たない程度の駆除をお勧めします。生態系の大切な一部なので、けして「一匹残らず！」とは思いませんように。(きのした)

クジャクシダ

クジャクシダは別名「クジャクソウ」や「アジアンタム・ペダツム」とも呼ばれ、ホウライシダ科ホウライシダ属の夏緑性シダ植物です。日本及び東アジア、北アメリカ原産の多年草です。高さは30センチほどになり長い葉柄は無毛の茶褐色で細く、葉は羽軸が二股分枝を繰り返して広がります。日本では北海道・本州、四国と九州の一部に分布しています。涼しく明るい森林内に自生していますが、なかなか見つけれません。一度だけ幅1メートル以上もある大きな株を見たことがあります。川のそばの北向きの斜面でした。耐陰性が高く屋内での栽培やシェードガーデンで楽しむ事ができます。夏に、緑色の葉が柔らかい羽毛のように広がり、涼しげな雰囲気を出してくれます。栽培は比較的簡単で、あまり土を選ばないのですが、強い日差しや乾燥に弱く直射日光が当たると葉やけをおこし葉がチリチリになってしまいます。また強い風にあたることにも弱いので



*Adiantum
pedatum*

す。クジャクシダという和名は葉の形が、孔雀が尾羽を広げた姿に似ていることからつけられています。若葉の時に赤みをおびることがありその姿もまた美しいものです。(いとう)

アジサイ

初夏に入りアジサイの仲間達は、種類によって開花も過ぎて来春の準備の作業も考える時期でもあります。品種により、花芽のつき方が異なるので剪定のタイミングもチェックが必要です。花後、伸びた枝に夏から秋に花芽が出来て冬越しして翌年咲く「旧枝咲き」と春から伸びた枝に花芽が出来てその年に咲く「新枝咲き」があります。剪定のタイミングは異なりますが、いずれも開花は基本的には年 1 回の一季咲です。最近では新タイプで、年 2 回以上咲くアジサイが注目されています。前年枝に伸びた枝に開花し、その後伸びる新しい枝にも花が咲く「新旧両枝咲き」は初心者向きのアジサイでもあります。花を切らずに秋色アジサイを楽しむのも良いのですが、来年の開花には不安も残ります。光とそよ風に当てて花を早めに切り取りましょう。花後の剪定は、花から下 2 節目か 3 節目の芽の上で切りましょう。半日陰で直射日光を避けて、夏前に購入株は植え替えをしましょう。新しい根が張りやすくなり丈夫な株に育ちます。鉢植えで育てているアジサイは 2 年に 1 度の植え替えは寒冷地では春先がお勧めです。(たかはし)

サビ病

相談コーナーに何件かのバラのサビ病の相談が来たようなので少しまとめてみました。サビ病というのは糸状菌（カビ）がもとで色々な植物に発生しますが、まったく同じ種類の菌ということではないようです。もしお手持ちのバラを観察してオレンジがかった鉄サビのような点々が葉に発生していたら変色している葉を取り、地面の落ち葉も広い集めて捨ててください。気温が低いのに湿度が高いような時期に発生するので、気温があまり高くない時期の雨上がりなどは気をつけるべきでしょう。植えている場所の風通しが悪いと病気のリスクは高まります。よく芝生のある庭で、イチイの木があるとそこに発生した菌が移りやすいとも言われますが、移るのではなく風通しが悪いせいで、どの植物にもサビ病が発生したということで考えた方が良いでしょう。菌は越冬するので、病葉を取り除き薬剤散布をしても次の年にまた出るようであれば、鉢上げして養生してから、よければ何年か後に別の場所に植え替えるのが良いでしょう。家庭菜園で育てている野菜に発生した場合は、残念ですが食べないで廃棄をおすすめします。サビ病にかかった植物は「ファイトアレキシン」という有害物質を体内に生成すると確認されています。(きのした)



ひとつき ひとバラ



文：堀内琴水
(いわみざわ公園バラ園)



ついにバラが花を付け始めました。この原稿を書いている現在のバラ園の様子はまだ満開ではありませんが、徐々ににぎやかになり始めてきました。今年は、日差しの強い暑い日があるかと思いきや、次の日には上着を着なくてはいけないほど寒い日があったりと気温の変化が激しく、バラにとっても厳しい気候だったのではないかと思います。また、剪定後の寒風害もひどく、枝がほとんど残らない株もありましたが、雨によりシュートがぐんぐん成長していき、無事花芽もついていました。本日紹介するのはレヨン・ドウ・ソレイユです。花の色はくっきりとした黄色で、とても鮮やかな見た目をしています。とげが少なく、花保ちも良いため初心者の方におすすめのバラです。レヨン・ドウ・ソレイユの葉はやや内側に折れ曲がり、葉の縁がギザギザしています。また、葉の表面にツヤツヤとした光沢があるといった特徴があり、花が付いていないときでもレヨン・ドウ・ソレイユだということがわかるくらい特徴的です。このように葉の表面に光沢があるものを照葉と呼びます。照葉には病気をはじく効果があるので耐病性も強いです。無農薬

第二百二十七回

フロリバンダ

レヨン・ドウ・ソレイユ

Rayon de Soleil

作出国：フランス

作出者：フランシス・メイアン

作出年：2015 年

ハーディネスゾーン：不明

四季咲き

交雑：(DELbaf × Unnamed Seedling) × Margaret Merril

でも育つほど丈夫であり、2015 年に ADR 賞を受賞しています。当園でも昨年の株の様子を思い返してみると、他の株がだんだんダメージを受け始める夏から秋の時期でも葉が充実していて、目立った病気もなく鮮やかな緑色をし、耐暑性もあるので夏の暑さでくたびれる様子もありませんでした。そして今の時期は若葉がもりもりと茂り始めて、花が付いていなくても見応えがあります。今の時期はどのバラも葉が開いたばかりで生き生きとしているので、より個性が目立っていて面白いです。葉っぱの話ばかりになってしまいましたが、最後に名前の由来を紹介し締めさせていただきます。レヨン・ドウ・ソレイユは、フランス語で「太陽光線」、「日差し」という意味です。明るくて黄色い見た目と太陽の光を浴びて咲く様子が由来となっているそうです。興味を持たれた方は、ぜひとも花盛りの時期に加え開花前のバラ園にも足を運んでみてください。

今月の市民園芸講座のご案内



●7月5日(土) 10:00～12:00 バラ管理スタッフのローズツアー

参加費：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●7月6日(日) 13:00～15:00 盆栽作りの楽しさ

材料費：1,000円 定員：40名 講師：桑内 彦 さん

●7月13日(日) 10:00～12:00 バラ管理スタッフのローズツアー

参加費：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ

●7月26日(土) 10:00～12:00 ばらゼミ⑤

参加費：無料 定員：40名 講師：古舘 杏奈 さん

●8月3日(日) 13:00～15:00 ミニ盆栽を仕立てよう

材料費：2,000円 定員 20名 講師：君島 信博 さん

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話 :0126-25-6111 ホームページ :<https://iwamizawa-park.com/>

※資料で用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。